

## 納品条件緩和に関する事例ヒアリング結果

### 1 実施概要

#### 見直しの内容と目的

- 現在、食品ロス削減と食品の物流問題への対応は急務な課題となっています。
- 各社で様々な取り組みが行われていますが、とくに日配品やデリカでは、店舗リードタイム延長を絡めた取り組みは、まだまだ広がりを見せていないといえるのではないかと。
- こうしたなか、食品ロス削減と物流効率化との両方を実現し、店舗・川上双方に何らかのメリットがあるようなリードタイム延長の取り組みが進みつつある。
- 大変意義あるものと考え、ヒアリングを行い、一般化し、横展開を図りたい。

#### 調査対象

- コンビニとデリカメーカーの調理麺の取り組み
- コンビニとデリカメーカーの弁当・おにぎりの取り組み

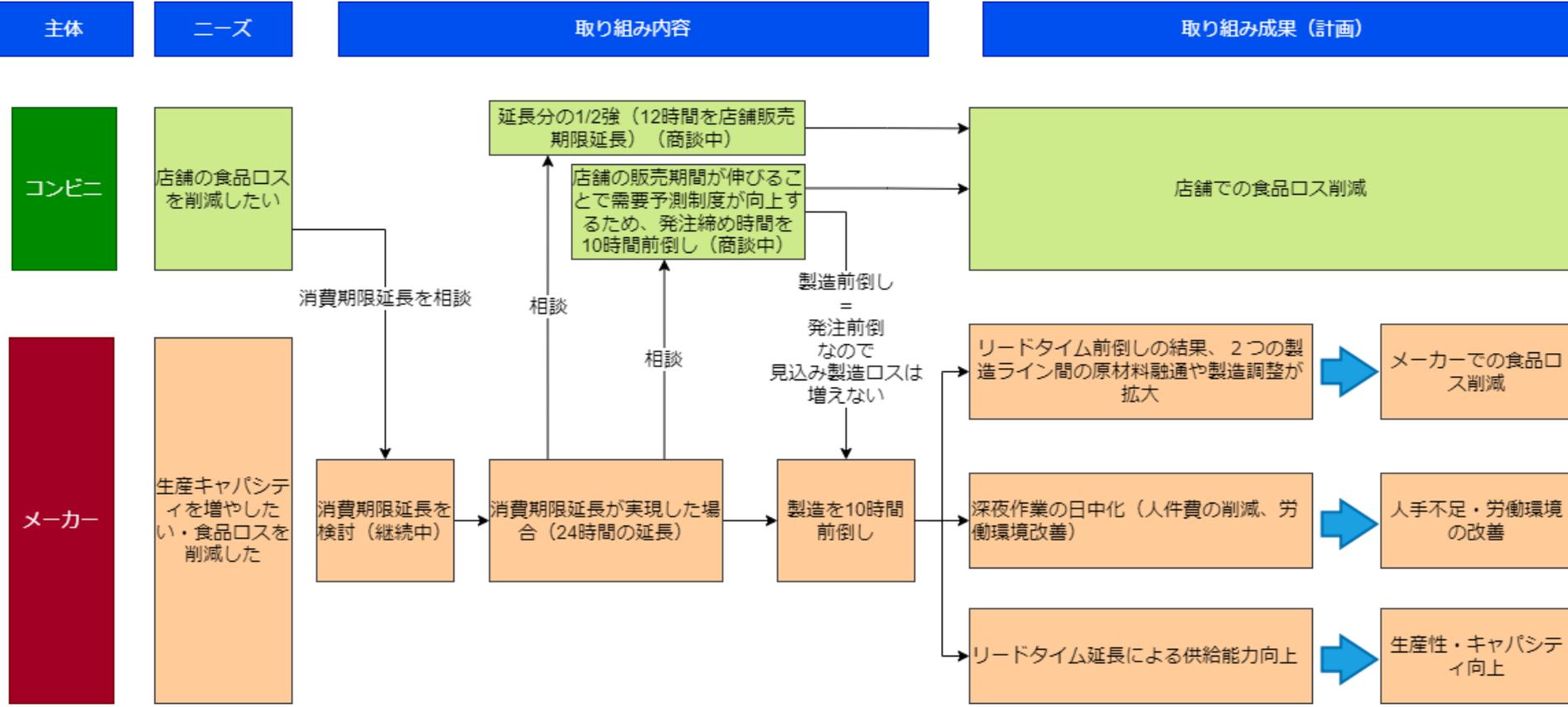
#### 調査方法

- 関係者ヒアリング

#### 調査期間

- 令和4年2月～3月

消費期限延長、店舗販売期限、及び納品リードタイム延長を包括した、小売・メーカー双方にメリットのある食品ロス削減と物流効率化の取り組みを推進



**納品・生産回数の集約とリードタイム延長によるロス削減と物流効率化**  
ミニストップ×日本デリカフレッシュ（おにぎり、惣菜、寿司類など）

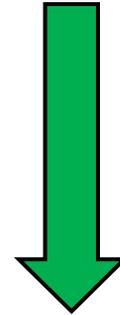
店舗の発注時間を前倒し、  
メーカーの出荷時間を後ろ倒し



リードタイム確保により  
生産の計画性向上



1日の製造・納品回数を3  
回から2回に削減



食品廃棄物発生量（推計値）の削減（13.1%）

物流コストの削減

店舗運営の効率化



#### ■ 取り組みの経緯：WRI 10×20×30の活動

- イオングループが、WRI（World Resources Institute、世界資源研究所）が呼び掛ける「10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ」（世界の大手小売企業が参加して食品サプライチェーン全体で食品廃棄物の半減をめざす活動）にアジア代表として参画。
- これを契機に海外グローバルリテーラーの事例を吸収するとともに、イオングループ小売各社とサプライヤーの複数の部門（環境・営業・生産等）がミーティングを重ねて、それぞれの業務プロセスと食品ロス削減に向けた課題を共有。
- 実行可能な方策を具体化して、食品ロス削減に取り組んでいる。

#### ■ 日本デリカフレッシュとミニストップの事例において認識されていた課題

- 店舗の課題：夜間の荷受けの負担が大きい
- サプライヤーの課題：食品ロス削減、生産効率

#### ■ 取り組み内容

- 店舗納品回数を1日3回から2回に変更し、夜間の店舗納品をなくす
- 発注時間の前倒しと出荷時間の後ろ倒し

#### ■ 取り組みの成果

- 店舗での食品廃棄量の改善（推計13.1%）
- 店舗の夜間納品の荷受けの軽減
- メーカーの生産の歩留まり改善
- リードタイムに延長による物流（積載率）の改善